

八王子市エディブルガーデン 都市部に彩る野菜の園

Edible Garden in Hachioji Vegetable garden to color the urban area

グループ名 47期前田ゼミ・エディブルガーデン班
大谷秀美, 三留瑞穂, 羅臻, 首代賢
指導教員 前田幸男 創価大学 法学部 法律学科

キーワード: エディブルガーデン, 野菜作り, 地元食堂, 地域交流

1. はじめに

八王子市は緑が多いということで有名である。八王子城や高尾山などのスポットは美しい景色によって遊人の心を引き、八王子市の魅力を続々と発散している。したがって、私たちは八王子の緑が人にアピールし、そして、八王子の活性化に繋がり、人を呼んで、定住してもらおうとすることを図る。しかし、実際に調査すると、八王子市の中心部、特にJR八王子駅の周辺に緑化が想像より少ないということを見つけた。それは中心部に住んでいる居民が多く、人の必須の生活施設を保つため、緑の空間が約めなければならないと思ったうえで、現存の施設を維持するのを前提として、居民の生活に悪い影響を与えない、八王子市の負担にならないように、エディブルガーデンという居住エリアに緑の増加ができ、利益的な効果ももたらすコンセプトを提案する。

2. 背景

八王子市は、都市部である東京の中でも、緑に囲まれた、自然豊かな場所であるが、特にJR八王子駅周辺では、多くがコンクリートで固められている。JR八王子駅周辺は中央地域と呼ばれ、八王子市内の他の地域に比べて、緑被面積ははるかに小さい。八王子市は魅力の一つとして、豊かな自然を挙げているが、市全体として、1970年に61.0%を占めていた樹林地率は、2007年には47.1%へと減少し、それ以降も減少傾向である。また、八王子市内における人口減少も問題の一つ

である。平成26年に行った調査の結果、八王子市では転入者数と転出者数の差が縮まってきており、長期的に見ると人口は減少傾向である。この要因として、多くの大学が立地しており、一定期間で出て行く「学生」が多いことが考えられる。すなわち、定住者を確保することが、人口問題を緩和することに大きく繋がると考える。

以上のことから、特に緑地面積の少ない中央地域において、JR八王子駅周辺の緑化をはかることで、市の魅力である自然を確保し、さらに住みやすい街づくりを可能にし、定住者を増やすという狙いをもって、以下の提案をさせていただく。

3. 提案

①エディブルガーデン



画像引用: http://www.toshimiryoku.jp/archive/1245805_11804.html

これは、edible(食べられる) garden(庭)という意味である。この提案の背景としては、人通りの多い中央地区のJR八王子駅周辺の花壇や植え込みなど空いたスペースを活かして、ハーブなどの簡単な農作物を育て、収穫しその収穫物を利用して

後述するように料理として振る舞うことで緑化と地域の活性化をねらうことを目的として提案された。

この提案の元となった取り組みはイギリスのドットモーデンという人口約1万5千人の小さな町で行っている道路脇や河川敷など空いているスペースにハーブなどを植え、それらを市民に公共物として自由に収穫、使用させることで地域の活性化を促したという取り組みである。

私達のグループでは、JR八王子駅の南口にある花壇を利用してバジルやパセリなど簡単に栽培できるハーブや季節ごとに植えられる作物を変え、枝豆やリーフレタスなどを栽培し、且つその取組みをJR八王子駅の利用者に対して認知してもらえるような看板の設置を提案したい。これらの植物を栽培するための花壇の世話は、もともとの花壇を管理していたボランティアの方々に行っていただき、ゆくゆくは八王子市民の皆様にもご協力いただけるように呼びかけを行い、共に栽培を行うことで幅広い年代の人々の交流の場を都市の緑化を通して提供することや、さらなる緑化の理解を市民の皆様にご覧いただくことが見込める。

この取り組みによってJR八王子駅周辺の景観を緑によって美しく、そして栽培を行うことでお年寄りの経験を生かした栽培活動や、それらを学ぶ機会を若い世代にも与えることができることに加えて、それらを通して八王子市民のコミュニティ作りの一環に貢献することができる。



(画像引用: <https://machi.mosha2.jp/>)

②地元食堂を介して地域交流

これは、野菜を単に育てるだけに留まらず、それを更なる地域交流に活用したいとの思いから着想した「地元食堂を介しての地域交流」を提案する。

また、これは野菜を育てる人たちにとっての「楽しみ」にもなると考えている。内容は、⑦エディブルガーデンで採れた野菜を地元食堂に提供する、④地元食堂がそれを料理に利用する、その際、店内に野菜作りに関わった地域の人たちの写真を飾ってもらう、⑧野菜作りに関わった地域の人たちが、その食堂に食べに来てもらうように宣伝する、というものである。これを実行するにあたり、連携先の地元食堂の選定やその依頼は一般社団法人フードバンク八王子に協力していただきたいと考えている。この提案を通して、野菜を「作る」交流だけではなく、それを「食べる」交流もできるのである。このような地域の人々の交流を通して、地域活性化を促したいと考えている。

4. 今後の展望

今回の提案はJR八王子駅周辺に限定したが、この取り組みが成功したら、八王子市全体へと広がっていきたいと思う。この提案は野菜を植えることができればどこでも再現可能だからである。

八王子市が、さらに豊かな緑に囲まれ、喧騒な都心部と異なり静かに過ごせる場所になり、さらに多様な人々が交流することができるコミュニティを形成することで、人々がより定住しやすい環境作りを進めることができます。

また、現在の地球温暖化の状況下において、モデルケースとなる都市づくりになると考える。ヒートアイランド現象をはじめとする様々な都市公害の緩和にもつながり、環境問題へのアプローチとしても成果が期待される。

5. まとめ

以上、ここまで八王子市におけるエディブルガーデンというコンセプトの実施について具体的な提案を行った。私たちが考えた「エディブルガーデン」という構想は単純に八王子市に緑を増やしていくだけではなく、八王子市民、シニアから子供までが力を合わせて、共にエディブルガーデンを維持し、産出した農作物を八王子市内での食堂に寄付し、公益事業に力を尽くしたい。